

Dynamic Enterprise AI Solution

<AIRead White Paper>
AIRead
フォルダ監視による自動実行の設定例

2026年3月
(AWP-007-10)

 **Arise Innovation, Inc.**

AIとローコード開発を活用し
世の中をより良い世界に

1. はじめに
2. bat内にループするスクリプトを記載して常駐させ定期実行
3. タスクスケジューラに登録して定期実行
4. ETLオプションのファイルトリガーを使用

1. はじめに

- 本書はAIReadのフォルダ監視による自動実行の設定方法を記載した文書です。
- 手動での読み取り実行を自動化することで、業務効率化を実現します。
- 3つの手法ごとの比較表

手法	メリット	推奨環境	注意点
バッチループ	設定が容易、即導入可能	個人PC、一時的な利用	都度手動起動が必要
タスクスケジューラ	OS管理で安定、ログオフ時も動作	共有サーバー、24時間稼働	実行サイクルの最短間隔が1分
ETLオプション	リアルタイム検知、複雑な後処理	基幹システム連携、即時性重視	利用には別途オプション契約が必要

- ETLオプションのファイルトリガーを使用については別途オプション契約が必要となりますので詳細は営業担当にご相談ください。

2. bat内にループするスクリプトを記載して常駐させ定期実行

■ 概要

Windowsのコマンドプロンプト (.bat) を使用し、処理の実行と待機を繰り返すループ構造を記述して常駐させる方法です。特別なソフトや設定が不要で、バッチファイル (.bat) を実行するだけで監視を開始できます。手元のPCで手軽に導入したい場合など簡易的な運用に適しています。なお、起動はその都度手動でバッチファイルを立ち上げ直す必要があります。

■ サンプルの使用方法

サンプルのダウンロードは[こちら](#)からダウンロード可能です。

サンプルバッチをご使用の際は、以下の「設定」部分をご自身の環境に合わせて書き換えてください。

- ・ WATCH_FOLDER : インputファイルが投入される監視フォルダのパス
- ・ CHECK_INTERVAL : フォルダを見に行く間隔 (秒数)
- ・ COMMAND_TO_RUN : AIReadを実行するためのファイル (.bat または .arex) のパス
- ・ LOG_DIR : 実行ログを出力・保存するフォルダのパス ※ .arexはAIRead独自の実行用ショートカットファイルです。

■ サンプルの仕様

- ・ ログの自動ローテーション :
月が変わると自動的にログファイルをバックアップし、管理しやすい状態で、読み取りの成功・失敗、チェック中の動作などの実行履歴を保存します。
- ・ 二重起動防止機能 :
システムの鍵 (ポート) を使用することで、誤って2回起動しても多重実行されないよう物理的に防ぎます。
※サンプルコード内で `set "PORT=49876"` とされていますが、ポートが競合する場合は、この数値を変更してください。

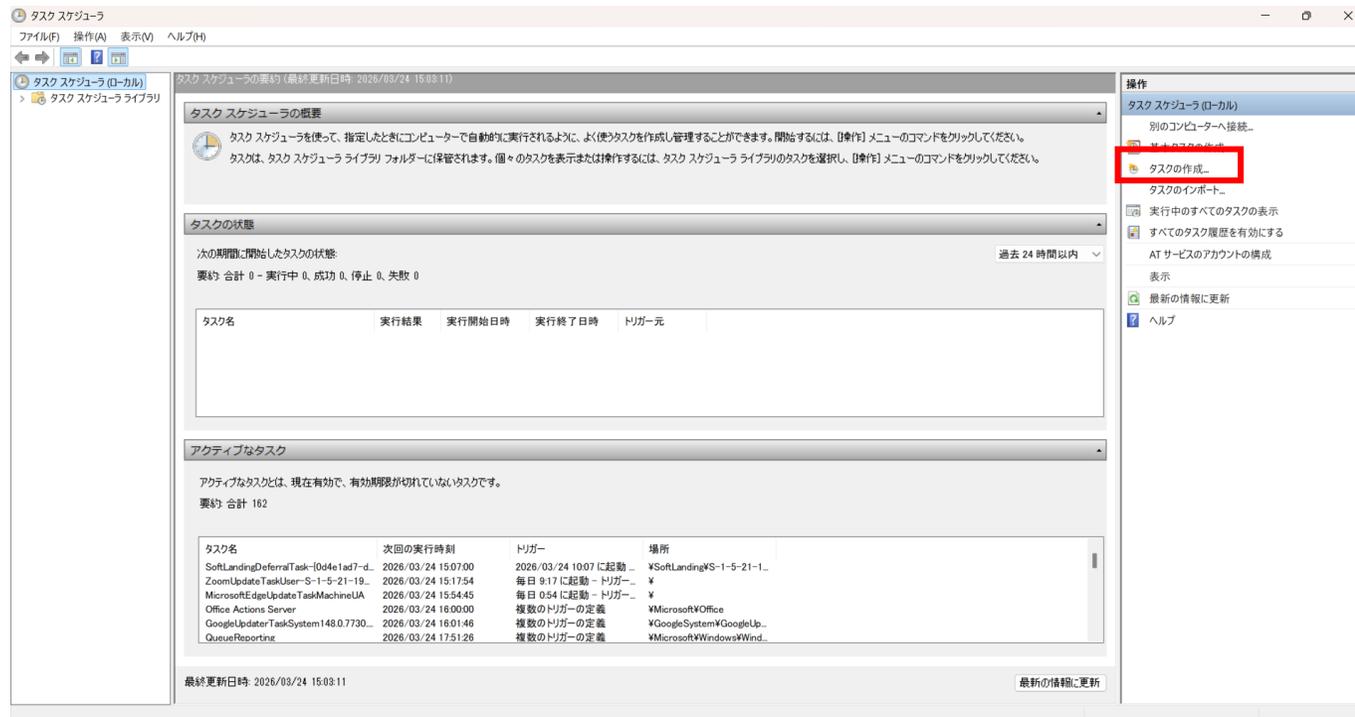
3.タスクスケジューラに登録して定期実行（1/6）

■ 概要

Windows OSの標準機能である「タスクスケジューラ」を利用して、あらかじめ設定したスケジュール（例：5分ごと）に基づきAIReadを実行する方法です。OSが実行を管理するため、PC起動時の自動開始やログオフ状態での動作が可能です。共用PCやサーバーでの安定運用、または担当者が不在の時間帯を含めた24時間の自動監視を行いたい場合などに適しています。なお、スケジュール設定で指定できる実行間隔の最短は1分です。

■ 設定方法サンプル

タスクスケジューラ画面から「タスクの作成」をします。



3.タスクスケジューラに登録して定期実行 (2/6)

■ 全般タブ

ここでは「誰が・どの権限で」実行するかを定義します。

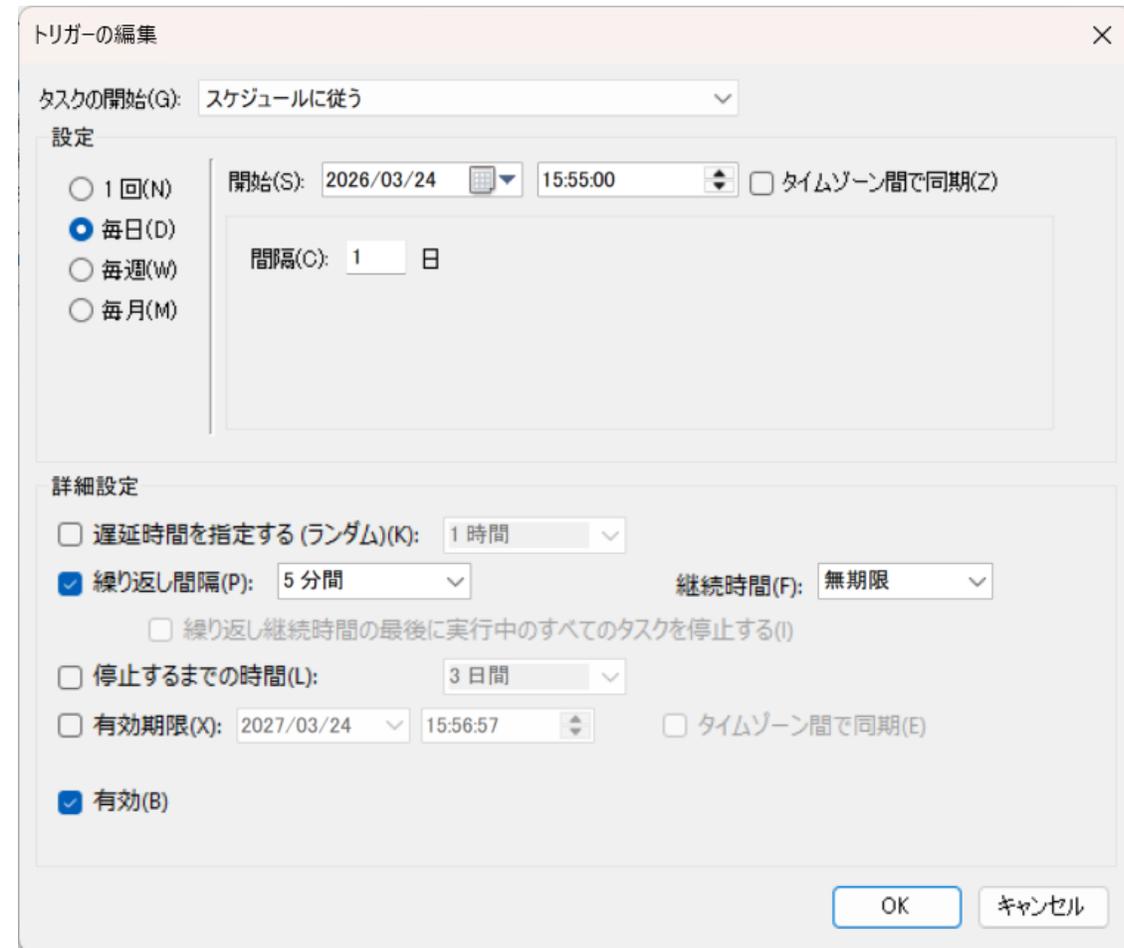
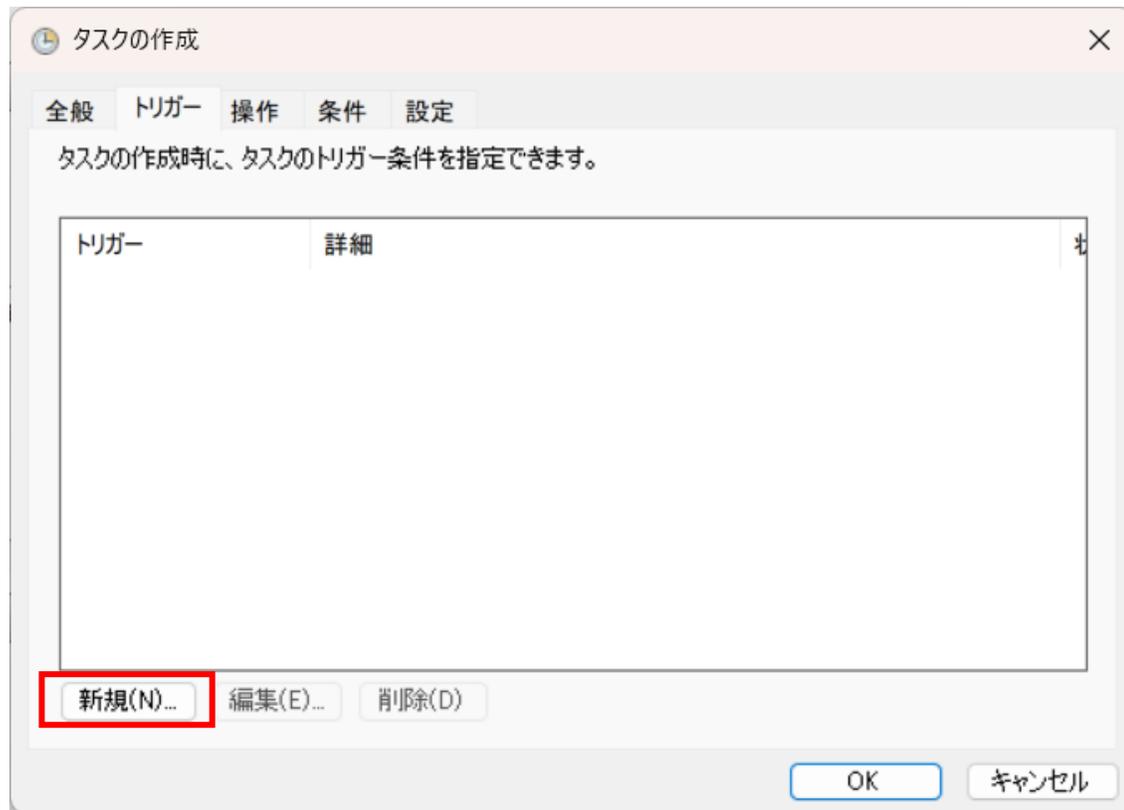
サーバー運用や共用PCの場合、ログオフ状態でも動作を継続させる設定が不可欠です。

The screenshot shows the 'Task Scheduler' dialog box titled 'タスクの作成' (Task Creation). The '全般' (General) tab is selected. The '名前(M):' (Name) field contains 'AIRead_自動監視'. The '場所:' (Location) field contains '¥'. The '作成者:' (Creator) field is redacted with a black box. The '説明(D):' (Description) field is empty. Under the 'セキュリティ オプション' (Security Options) section, the 'タスクの実行時に使うユーザー アカウント:' (User account to use when running the task) field is redacted, with a 'ユーザーまたはグループの変更(U)...' (Change user or group...) button to its right. Below this, there are three radio button options: 'ユーザーがログオンしているときのみ実行する(R)' (Run only when user is logged on), 'ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する(W)' (Run whether or not user is logged on), and 'パスワードを保存しない(P) (タスクがアクセスできるのはローカル コンピューター リソースのみ)' (Do not save password (tasks can access only local computer resources)). The 'パスワードを保存しない(P)' option is unchecked. Below the radio buttons, there are two checked options: '最上位の特権で実行する(I)' (Run with highest privileges) and '表示しない(E)' (Do not display). At the bottom, the '構成(C):' (Operating system) dropdown menu is set to 'Windows Vista™, Windows Server™ 2008'. The 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons are at the bottom right.

3.タスクスケジューラに登録して定期実行（3/6）

■ トリガータブ

Windowsのスケジュール機能を利用して、一定間隔（例：5分ごと）で実行ファイルを自動起動する設定です。OSが定期的に「監視フォルダにファイルがあるか」を確認しに行く運用が可能になります。

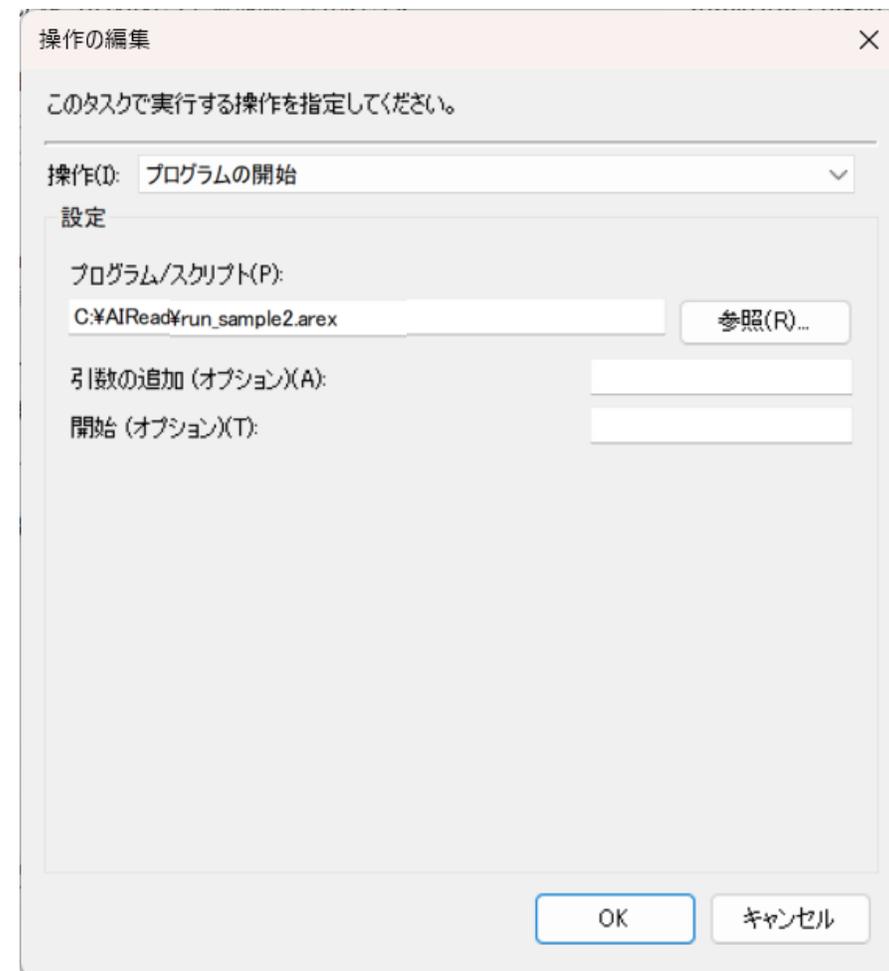
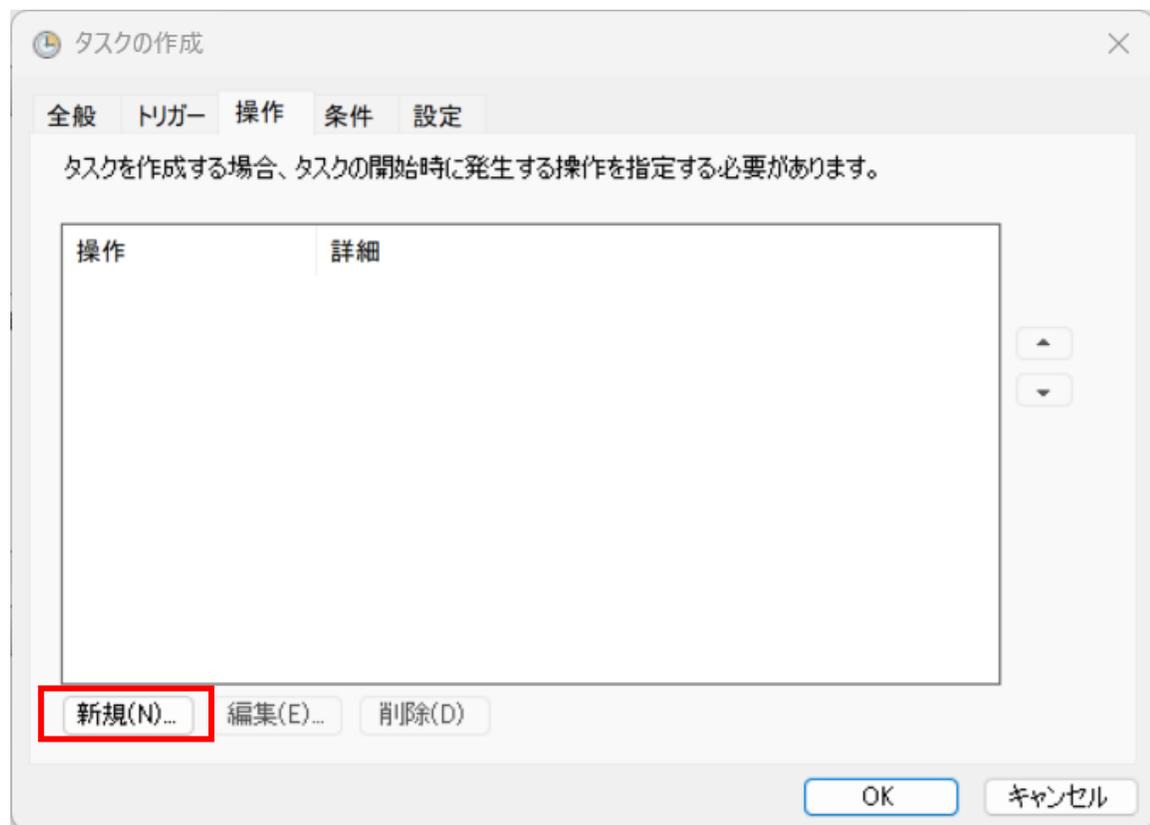


3.タスクスケジューラに登録して定期実行（4/6）

■ 操作タブ

実際に実行するAIReadの実行ファイルを指定するステップです。

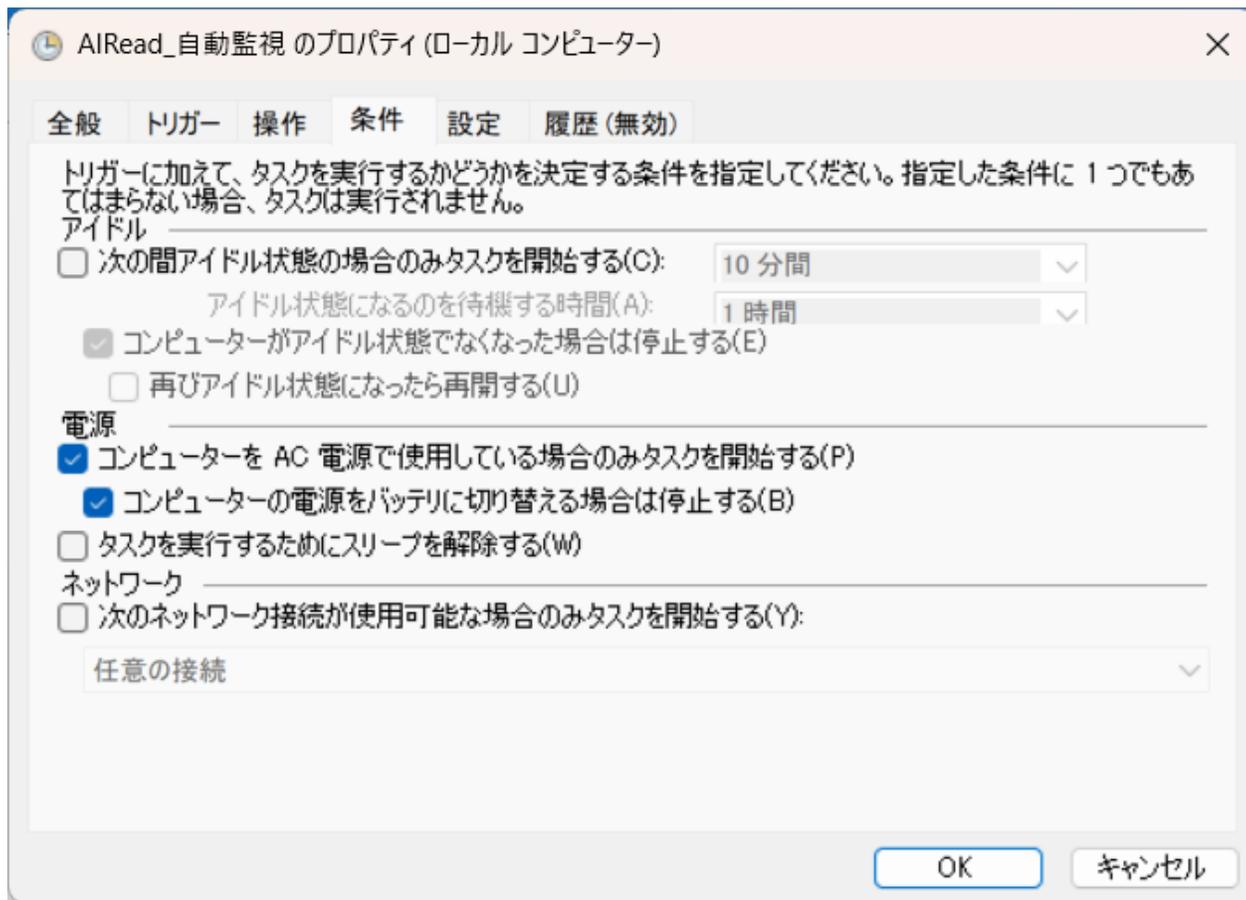
「プログラム/スクリプト」欄に、使用する実行ファイル（.bat または .arex）のフルパスを記述してください。



3.タスクスケジューラに登録して定期実行 (5/6)

■ 条件タブ

タスクを実行するための電源状況やシステムの状態を制限する設定です。
ノートPCで運用する場合、デフォルトでは「AC電源接続時のみ実行」が有効になっています。
電源ケーブルを抜いた状態でも自動読み取りを行いたい場合は、電源セクションのチェックを外してください。



3.タスクスケジューラに登録して定期実行（6/6）

■ 設定タブ

タスクの実行管理に関する詳細な動作を定義します。

「新しいインスタンスを開始しない」を選択してください。

この設定により、常に1つのタスクのみが動作する状態を維持できます。

前回の処理が完了していない状態で次のサイクルが始まってしまうことによる、二重起動や処理の中断、データの競合といったトラブルを未然に防ぐことができます。

タスクの作成

全般 トリガー 操作 条件 設定

タスクの動作に影響する追加設定を指定してください。

- タスクを要求時に実行する(L)
- スケジュールされた時刻にタスクを開始できなかった場合、すぐにタスクを実行する(S)
- タスクが失敗した場合の再起動の間隔(T): 1分
- 再起動試行の最大数(R): 3
- タスクを停止するまでの時間(K): 3日
- 要求時に実行中のタスクが終了しない場合、タスクを強制的に停止する(F)
- タスクの再実行がスケジュールされていない場合に削除されるまでの時間(D): 30日間

タスクが既に実行中の場合に適用される規則(N):

新しいインスタンスを開始しない

OK キャンセル

4. ETLオプションのファイルトリガーを使用 (1/5)

■ 概要

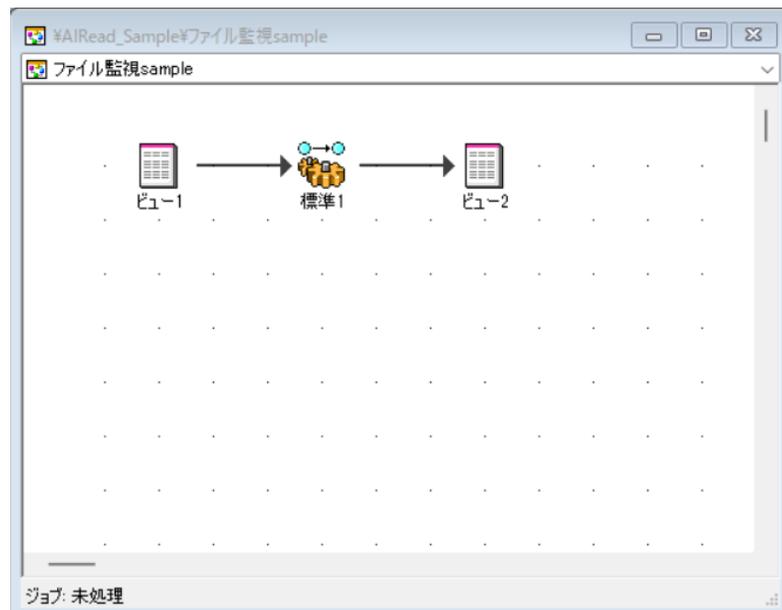
AIRead ETLオプションの「ファイルトリガー」を使用する方法です。

監視フォルダへの画像ファイルの到着などをトリガーとして自動検知し、AIReadを自動実行するため、タイムラグのないリアルタイムな処理が可能になります。即時性が求められる業務や、読み取り後のデータを基幹システムへ直接登録する等、複雑な前後処理を伴う自動化に適しています。なお、本機能の利用には別途オプション契約が必要となります。

■ 設定方法サンプル

以下画像がETLオプションのジョブサンプルです。

ビューやビューフィルタはファイルトリガーを起動させるための仕組みとして、便宜上ファイル入出力の設定を行っているダミー設定となります。



4. ETLオプションのファイルトリガーを使用 (2/5)

■ ビューの設定

このサンプルはC:\¥AIRead直下にある「in.txt」（ダミーテキスト）をそのまま「out.txt」としてC:\¥AIRead直下に出力する設定となっています。

ファイル監視を設定するうえでのダミー設定のため、この処理自体の意味はありません。

ビューのプロパティ

ビュー名(N): ビュー1
コメント(D):

接続情報: 固定長テキスト1 参照(B)...

ファイル名(E): in.txt 参照(O)... ビューア(V)

モード(M): Read/Write

文字コード(C): シフトJIS コードチェックを行う(H):

カラム設定(L):

カラム名	型	長さ	精度	小数点以下桁数	LOB出力	NULL許可フラグ	備考
1 カラム1	文字	5	5			非許可	

接続情報のプロパティ:

プロパティ名	設定値
接続種類	固定長テキスト
接続情報名	固定長テキスト1
接続情報フォルダ名	¥フォルダ監視起動
コメント	
更新日時	2022/12/06 9:37:52
NULL定義	指定なし
パス名	C:\¥AIRead
ヘッダ行数	0
出力改行オプション	CR-LF

↑ ↓ 最後に追加(A) 挿入(S) 削除(R) インポート(O...) エクスポート(X...) プレビュー(W) OK キャンセル

ビューのプロパティ

ビュー名(N): ビュー2
コメント(D):

接続情報: 固定長テキスト2 参照(B)...

ファイル名(E): out.txt 参照(O)... ビューア(V)

モード(M): Read/Write

文字コード(C): シフトJIS コードチェックを行う(H):

カラム設定(L):

カラム名	型	長さ	精度	小数点以下桁数	LOB出力	NULL許可フラグ	備考
1 カラム1	文字	5	5			非許可	

接続情報のプロパティ:

プロパティ名	設定値
接続種類	固定長テキスト
接続情報名	固定長テキスト2
接続情報フォルダ名	¥フォルダ監視起動
コメント	
更新日時	2022/12/06 9:38:04
NULL定義	指定なし
パス名	C:\¥AIRead
ヘッダ行数	0
出力改行オプション	CR-LF

↑ ↓ 最後に追加(A) 挿入(S) 削除(R) インポート(O...) エクスポート(X...) プレビュー(W) OK キャンセル

4. ETLオプションのファイルトリガーを使用 (3/5)

■ ビューフィルタの設定

固定長テキスト接続情報のプロパティ

名前(N): 固定長テキスト1

コメント(D):

更新日時: 2022/12/06 9:37:52

NULL定義(L): 指定なし

NULL定義文字列(T):

パス名(P): C:\ARead

ヘッダ行数(H): 0

出力改行オプション(O): CR-LF LF CR

入力改行オプション(I): 自動 出力と同じ

末尾のスペース(R): 削除する

0x00の扱い: 文字列の終端とみなす(Y) BOMを出力する(B)

UnicodeのBOM出力: BOMを出力する(B)

OK キャンセル

固定長テキスト接続情報のプロパティ

名前(N): 固定長テキスト2

コメント(D):

更新日時: 2022/12/06 9:38:04

NULL定義(L): 指定なし

NULL定義文字列(T):

パス名(P): C:\ARead

ヘッダ行数(H): 0

出力改行オプション(O): CR-LF LF CR

入力改行オプション(I): 自動 出力と同じ

末尾のスペース(R): 削除する

0x00の扱い: 文字列の終端とみなす(Y) BOMを出力する(B)

UnicodeのBOM出力: BOMを出力する(B)

OK キャンセル

4. ETLオプションのファイルトリガーを使用 (4/5)

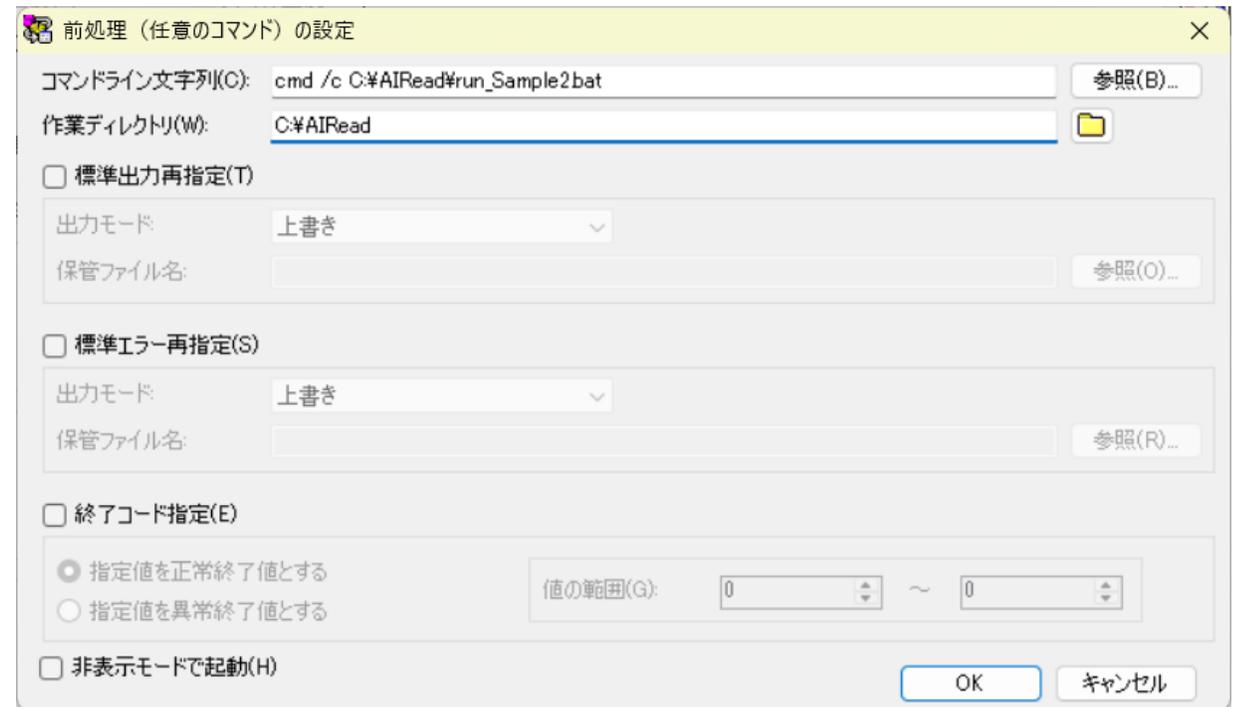
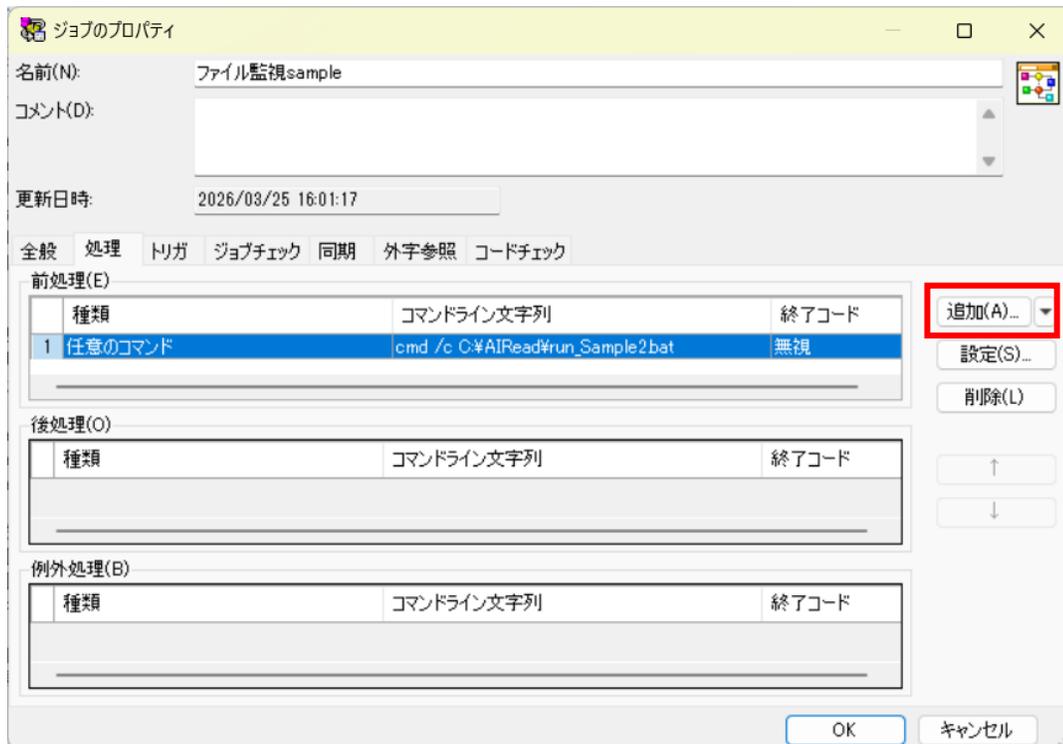
■ ジョブのプロパティ

ジョブのプロパティでファイル監視の設定をします。(ジョブ画面の任意の場所を右クリック→プロパティ)

・ 処理タブ

前処理にAIReadの実行ファイルを追加します。

コマンドライン文字列の「cmd /c」のあとに実行ファイル(.bat または .arex) のパスを設定してください。



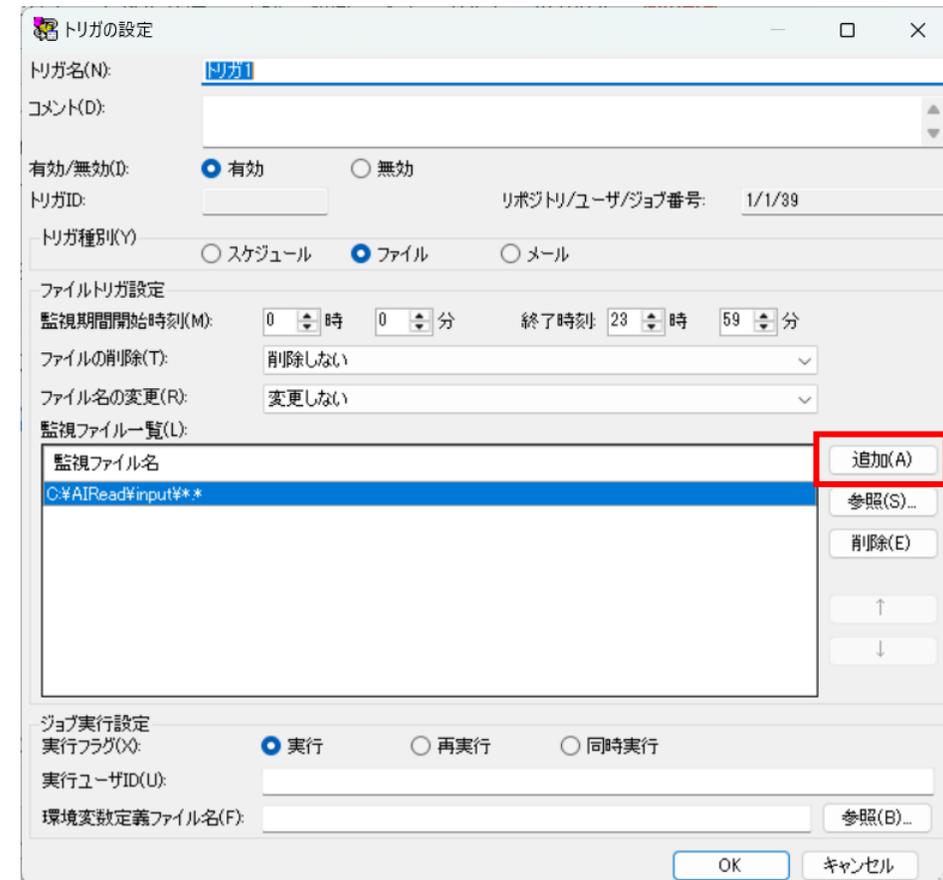
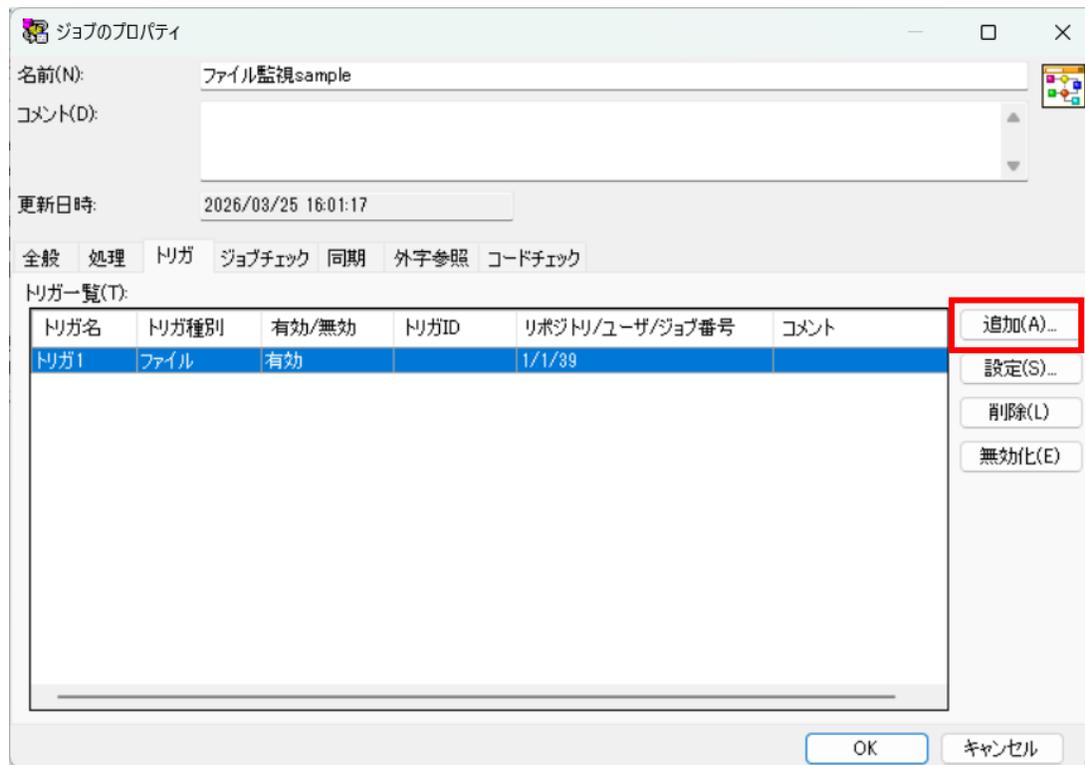
4. ETLオプションのファイルトリガーを使用 (5/5)

・トリガタブ

トリガを追加します。

トリガ種別「ファイル」を選択し、監視ファイルを追加します。

以下のサンプルでは C:\¥AIRead¥input 以下に格納されたファイルすべてを対象としています。





アライズイノベーション株式会社

東京都中央区勝どき3-13-1

Mail : airead_support@ariseinnovation.co.jp

AIRead Official : <https://airead.ai/>

AIRead Support : <https://airead.tech/>

AIRead Manual : <https://manual.airead.ai/>